

栃木県中学校長会報

会長あいさつ



栃木県中学校長会長
宇都宮市立一条中学校
校長 阿部 豊

今日、科学技術の進歩
や経済の発展は、物質的
豊かさを産み、情報化・
国際化・高齢化が進む中

で、人々の考え方は多様化し、社会生活のあり方が容易ではなくなるなど、心の衰退をまねいているものと思われま

す。この様な時代の進展の中で、生涯学習の視点に立っての中学校教育の役割を思う時、学校教育の実践に当たっては、これまでにもまして、人格形成のための基本理念を深く認識し、具体的施策を講じて行かねばならないと思

います。平和にして恵まれた社会は、生徒の望ましい成長にひずみをきたし、反社会的・非社会的行動を生ずるに至った。いじめや窃盗・喫煙・薬物乱用そして女子生徒の非行・登校拒否生徒の増加等、多方面にわたっての問題行動が挙げられるなど、取り組まねばならない課題が山積している。中学校教育の掌にあるわれわれとしては、日夜この対応に苦慮しているわけだが、実際にはその課題のいくつかを挙げてみても、一般社会にも大きな問題があり、時として教育の限界を感じること多

い。さて、学校経営の視点から、平成2年度以降、いっそうの努力を積まねばならないことについて取りあげてみたい。

まず第1には、教育改革の一つとしての新教育課程の対応があげられます。言うまでもなく基準の改善の方針では、

- ① 豊かな心を持ちたくましく生きる人間の育成
- ② 自己教育力と社会の変化に主体的に対応できる能力の開発
- ③ 基礎的・基本的内容の重視と個性の伸長
- ④ 国際理解と文化や伝統の尊重

となっており、学習指導要領によってその具現化を図ることとなり、真剣に対処しなければならぬ義務が課せられているところであります。

なんと申しましても、新学習指導要領では、選択教科の幅の拡大や、授業時数の弾力的扱いなどが示され、そのために、生徒の興味・関心・能力及び個性を生かすための教育計画や、開かれた学校づくりのための積極的工夫による取りくみが叫ばれるなど、特色のある学校の経営が求められ、期待されているところであります。

第2には、初任者研修への対応であります。本年度から完全実施となり、曲りなりにも創意工夫により適切な運営をなされておられると思います。この制度の趣旨に全く異論はないにしても、現実の対応については、多くの課題が提起されておりますが、いずれにしても、大局的立場から教員の資質の向上を、円滑な学校運営をめざし、適正なあり方を摸索する努力が求められています。

第3は、適正な進路指導の推進であります。義務教育最終の中学校教育は、生徒にとって極めて重要で意義深いものです。学校における管理体制や、画一的な授業等、生徒の自主や主体性を阻止するものであるとともに、進路指導の適正化をはばむことにもなると思われま

す。多くの経験をふまえることや習熟度別学習等個性や能力の伸長をはかる視点に立っての進路指導のあり方を摸索し、そのための工夫改善を図ることが重要かと思われま

以上3点の視点から課題を提起いたしましたがいずれにしても、私達がどのような学校づくりを目指すかは、一に生徒の幸・不幸に連なるものであって、決して容易でなく、おろそかにすべきではないと思

私達は、常に確かな教育観を持ち、今日ある中学校のあるべき姿を、探究する責任と自覚を持たねばならないと思

厳しい現実を謙虚に受けとめ、学校経営に夢を持ち、開かれた、そして活力に満ちた学校への道を、創造して行こうではありませんか。

(総会での会長あいさつより)

快談・快笑



栃木県中学校長会副会長
宇都宮市立星が丘中学校
校長 渡邊 榮一

快よい議論や笑いは私の健康法であるが、明るい職場づくりにも不可欠なものであろう。

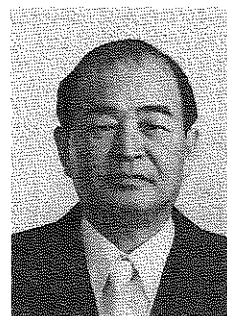
生徒指導主事いやその部員になることさえも敬遠されるこの頃である。たしかに「求めにくい共通理解」「あれもこれも学校に責任が負わされる」等の要因は多い。校則をうんぬんするが、教育に係わる事故が起これば「学校は何を……」と責められる。

一方では基礎・基本・精選が叫ばれているが生徒指導は、頭髪、服装、非行等に加え、日常のあいさつ、言葉づかい、食事のマナー、トイレの使用、登校拒否生徒の指導、等、量・質ともに拡大されそれが学校を過密化させているように思えてならない。生徒指導の仕事は三瓦（きつい、危険、きらわれる）とさえ言われるほど現実にはむずかしさがひそんでいるのであるから快笑など……。

だからといって、私にも名案はないが、学級担任、学年主任等と生徒指導主事の分任などを校内研修で激しいが快よい議論を展開している。それは建前論で終わることなく、今必要なはどうか、そのためにそれぞれが何をすればよいか、を考える教職員に支えられている学校だからである。加えて、家庭、地域社会の役割を再認識し合い「いく道」を摸索している。「星中生健全育成協議会」はその一つである。

「目の前の子をどう育てるか」の発想で「チェックだけ」の前進を願っている。そのために「校長は健康であり、孤独であってはならない」と肝に銘じ、だれとでも快談し、大声で笑えるよう努めている。皆さんのお力添えをいただきたい。

教育は信頼から



栃木県中学校長会副会長
栃木市立東陽中学校
校長 安生 幸比古

人間の歴史始まって以来、教育という営みは連続として続いていることは明らかである。徳川

時代の藩校、塾、あるいは全国に約36,000あったと言われる寺小屋などのわが国の教育制度は、大変すばらしかったと言われている。

このことが明治以降のすばらしい日本の教育制度を生み、今日の世界に冠たる現在の日本を生み出したと言っても過言ではなからう。

これらの教育の基本は、教える者と教わる者、そしてその保護者との間にしっかりと「信頼関係」があったことは当然のことと思われる。

如何によい制度であっても、三者の間に信頼関係が強くなければ教育の成果はあがるまい。教育の基本は信頼であることを改めて確認したい。

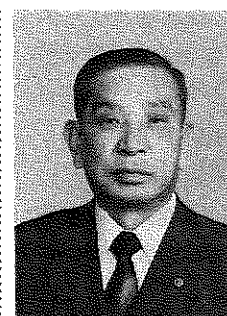
ところで、現在の日本では国民の英知と努力と教育のお陰で、すばらしい科学技術の進歩と経済発展をし、金と物が豊かになっていることは喜ばしいことであるが、反面、本来の日本人の美しい心が失われつつあることは寒心に堪えない。

経済の豊かさ・少子時代の中で、国民の教育に寄せる関心と期待は益々強まることであろう。言論の自由の中で我々教師への批判も聞こえてくるが、我々教師は生徒・保護者の信頼を得べく、また期待に応えるべく先ず努力し、三者の信頼の絆を強めるための更なる精進が必要であろう。

小生も現任校4年目。先生方にこのことを強く要望し「まず実践」を促し、生徒には「気合いと実行」をモットーにして頑張らせている。

今年のPTA総会の出席率は720/876=85.1%、自主参加の学年毎のPTA奉仕作業も常に70%を超えているが、何とか持続させたいと思う。

退任にあたって



前栃木県中学校長会長
〔前宇都宮市立
宮の原中学校長〕

柿 沼 敬 二

会員の皆さんお元気で
すか。今年の夏は、近年

にない猛暑、加えていつまでもきびしい残暑の日々が続きましたが、ご健勝にて職務にご精励のことと拝察いたします。

県中学校長会在籍中は大変お世話になりました。特に、昨年度の一年間は、力不足の私に対し、副会長さん、理事さんはじめ、会員の方々から各面に亘り多大のご支援、ご協力をいただき、どうか会長としての重責を果たすことができましたことを心から感謝申し上げる次第です。

平成元年度は、第39回全日本中学校長会研究協議会栃木大会を開催した翌年であり、その折りに

結集された力と意気を学校経営に向け、教育目標の具現化、学校課題の解決に一そう努めると共に、本会の研修活動の推進や各地区中学校長会・関係機関との連携を図り、本県中学校教育の充実・発展に寄与していくことを方針にして運営してまいりました。

幸いにして、会員の校長先生方からのご理解とご協力をいただき、着実な歩みのできましたことに対し、重ねてお礼申しあげたいと思います。

現在、中学校には様々な課題がありますが、特に、新しい学習指導要項の全面実施を視野に立ての移行措置や教育課程の編成のこと、全校体制での初任者研修の円滑な実施のこと、そして、生徒指導に関わる問題等で、校長先生方はご努力なさっていることと思います。

県内の校長先生方には、一致してこれらの課題と取り組み、広い識見と指導力を発揮されて成果をあげられることをご期待申し上げます。

おわりになりましたが、栃木県中学校長会のみならずの発展と校長先生方のご健康とご活躍を心からご祈念申し上げます。

料の交換

④ 調査結果や収集資料の配布

2. 「中学校教育に関する調査」について

この調査は、全日中校長会調査部との共同調査で、去る6月に実施した。調査に当たっては県教育委員会の義務教育課と高校教育課にそれぞれ資料提供をお願いし御協力をいただきました。特に、松本主幹や鈴木課長補佐にはお世話になりました。また、項目によっては県下中学校の悉皆調査の必要があったため、全中学校長各位に、特に地区の集計事務については、各地区の調査部の校長各位にお骨折りをおかけしました。厚く感謝申し上げます。おかげさまで9月7日の県中学校長会研究大会の折りに、全中学校長各位に配布することができました。

その調査の結果の一端を次の表で紹介いたします。

平成2年度各専門部

活動計画

☒ 調査部

部長 下里 偉 弘 (宇・泉が丘中)

1. 役員選出と事業計画の作成

平成2年6月1日に教育会館において部会を開催し、次のとおりに決定した。

(1) 役員 副部長 福井 淳 (河・上三川中)

〃 野澤三夫 (鹿・東中)

(2) 事業計画

① 全日中調査部との共同調査である「中学校教育に関する調査」の実施

② 県中学校長会ならびに各専門部活動に必要な調査と資料の提供

③ 他県中学校長会、教育団体との連携と資

比較項目	昭48.4.1 (初回)	平元.5.1	平2.5.1	
給料	初任給(大学卒)	51,900円	142,200円	148,100円
	勤続10年	78,400円	228,700円	236,000円
	勤続20年	111,800円	321,400円	330,800円
	勤続36年(校長)	146,400円	424,300円	436,500円
旅費1人当たり(年間)	24,100円	67,800円	68,700円	
校長退職年齢	58歳	60歳	60歳	
生徒数	78,836人	91,252人	88,030人	
教職員(校長、教頭、教諭、養護教諭等)	3,588人	4,338人	4,403人	

☒ 研修部

部長 吉田 武(宇・雀宮中)
研修部年間事業計画

1. 第1回研修部会 平成2年6月1日(金)

議題

(1) 平成2年度研修部組織

- ・研修部長 吉田 武(宇・雀宮中)
- ・同副部長 横嶋 孝夫(河・上河内中)
- ・同副部長 高瀬 敏通(那・日新中)

(2) 関東甲信越地区中学校長会第36回総会第44回研究協議会栃木大会について

- ・各地区研究主題の提出

(3) 平成2年度栃木県中学校長会研究主題の確認

- ・「心豊かでたくましい日本人を育てる中学校教育」 副主題「新教育課程の研究と実践による中学校教育の充実」

(4) 平成2年度研修部活動計画

ア 第12回栃木県中学校長会研究大会

- ・期日 平成2年9月7日(金)
- ・会場 栃木県子ども総合科学館
- ・内容 分科会(第1～第3)及び講演
演題「新学習指導要領に基づく教育課程編成・実施上の課題」
講師 全日中教育研究部長
高山昌之先生

イ 研究集録第13集発行

2. 第2回研修部会 平成2年7月7日(土)
議題

- (1) 研究大会要項作成
- (2) 研究大会係分担と運営

(3) その他

3. 第3回研修部会 平成2年8月20日(月)
議題

- (1) 研究大会分科会提案要旨まとめ
- (2) その他

4. 第4回研修部会 平成2年12月11日(火)
議題

- (1) 研究集録第13集の編集(各地区活動状況2P提出)
- (2) 研究集録第13集の発行、配布(平成3年2月22日)

☒ 編集部

部長 薄井 健郎(宇・宝木中)

○平成2年6月1日(金)、栃木県教育会館において、第1回編集部会を開き、本年度の役員を次のように決定しました。

- ・部長 薄井 健郎(宇・宝木中)
- ・副部長 高久 邦夫(河・河内中)
- ・" 根本 圭造(芳・芳賀中)

○平成2年度は次の期日をめやすに、年2回の会報(第73号、第74号)の発行を中心に活動を進めることにしました。

・第2回編集部会(6月23日(土)、宝木中)
第73号の内容と執筆者について。9月10日(月)発行予定。

・第3回編集部会(11月24日(土)、宝木中)
第74号の内容と執筆者について。1月21日(月)発行予定。

○平成2年度の会報の編集方針として、次のことを話し合いました。

- ・従来どおり12ページを確保する。
- ・内容については、基本的に従来ものを踏襲し、さらに充実を図るための意見や要望を会員から聴取する。
- ・栃木県中学校長会の活動を中核としながら、広く県内の他の団体等の活動や関中・全日中校長会の動きについても、必要に応じて紹介するように努める。
- ・他の都道府県中学校長会の会報の収集や交換

にも配慮する。

○第73号の内容については、次のようなものを盛り込むこととし、執筆者に御協力をいただくことにしました。

- ・役員所感 会長 副会長(宇都宮、栃木)
- ・専門部活動計画 調査、研修、編集、職員対策、進路対策、修学旅行、福利厚生、生徒指導の各部
- ・退任にあたって 前会長
- ・新任校長の一言 新任校長5名
- ・地区だより 河内、芳賀、塩谷、南那須、安佐、足利の6地区
- ・私の朝会訓話、関プロ千葉大会、お知らせ(全日中道徳研究大会、関プロ国語栃木大会)

☒ 職員対策部

部長 喜多山 伸 治(宇・城山中)

平成2年6月1日(金)県教育会館において専門部会を開き、本年度の組織及び事業計画を協議し、次のように決定しました。

(1) 役員

- 部長 喜多山 伸 治(宇・城山中)
- 副部長 安生 幸比古(下・栃木東陽中)
- 副部長 澁井 英雄(那・黒羽川西中)

(2) 今年度の計画

- 講話 退職後の生活設計
- 期日 平成2年12月6日(木)
- 場所 県教育会館
- 講師 県福利課長他

(3) 研修内容

一退職と退職後の課題一

- ① 医療制度
 - ・任意制度組合員制度
 - ・継続療養
 - ・短期給付
- ② 退職手当
 - ・退職手当の種類
 - ・退職手当の計算
 - ・各種課税等

② 年金の計算方法

- ・年金の計算
- ・年金の支給
- ・厚生年金との調整

※講話「退職と退職後の課題」は福利厚生部と共催の予定です。

☒ 進路対策部

部長 加藤 昌 雄(宇・宮の原中)

平成2年6月1日、教育会館において部会の組織づくりや活動計画について協議し、今年度の活動方針を決めて積極的に推進することにした。

1. 第1回研修会(実施)

- (1) 期日 平成2年7月24日 教育会館
- (2) 内容 平成3年度県立高校入試に関する諸問題について

- (ア) 中学卒業生数と県立高校募集定員
- (イ) 学科再編、推薦入学の見通し
- (ウ) 隣接県高校入学者選抜に関する約束事項
- (エ) その他

(3) 助言者

- 県教委高校教育課長補佐 速水虎之助先生
- " 副主幹 増田 良二先生
- 義務教育課副主幹 渡辺 紘夫先生

(4) 感想

最初に、平成2年度県立高校入学者選抜実施状況についての説明をいただき、次いで、諸問題について意見の交換を行った。その中で、中学卒業生の動向に対する募集定員、学科再編の考え方や今後の見通し、入学願書の手続き等について共通理解を図り、さらに、中学校の立場から県立高校への多くの要望をお願いすることができ有意義な研修会であった。なお、小山地区校長会から、貴重なアンケートを提供していただきましたことに心から感謝申し上げます。

2. 第2回研修会(現時点では未実施)

- (1) 期日 平成2年10月下旬、教育会館
- (2) 内容 私立高校入試に関する諸問題について

- (3) 助言者
私立高校県内代表校長先生
県・文書学事課私立高校担当者

☒ 修学旅行部

- 部長 青柳 蔚 (宇・国本中)
- 副部長 菅沼 基訓 (小・間々田中)
- 〃 田村 幸二 (宇・横川中)

本部会は修学旅行本来の使命達成を目的とし、特に関西方面への輸送の円滑化と学習効果の向上に寄与するための部会であり、その事業は主として調査研究、資料の収集、その他関係機関との交渉、総合的輸送計画の樹立等であります。

従って本部会は、本県だけの独立した組織機関ということだけでなく関東地区公立中学校修学旅行委員会(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉)に加盟し、相互の連絡を密にして修学旅行実施時期の調整、合理的でしかも安全な輸送計画を立案するという大きな役割をもっております。

ちなみに、関修委で取り扱った平成2年度の計画輸送は、学校数820校、生徒数194,013名で、本県関係は、135校、26,720名でした。

更に、本年度は関修委・全修協共催による研究発表会栃木大会が11月15日プラザインくろかみで開催されることになり、新学習指導要領に添った新しい修学旅行の在り方を目指して、その改善に取り組まれた次の二校の研究発表があります。

- 小山市立美田中学校 松岡美久子教諭
「一人一人にやる気と心を育てる修学旅行」
—合いことば、みんながリーダー—
- 宇都宮市立国本中学校 大瀧伸一教諭
「新しい修学旅行の在り方を考える」
—同一目標別、班行動—

また、修学旅行の実施報告書をもとに、要保護標準要保護生徒対象に修学旅行費補助金の増額(1人当り39,300円を43,400円に)と校外活動費の増額を文部省に陳情している。その他に加盟校は東海道新幹線特急料金が教職員を含めて5割引(5,140円)等の経済性等、修学旅行全般にわたり理論と実践について広く深く研究協議を行ってま

なお、本年度の関修委の会長は、栃木県中学校長会長の阿部豊一条中校長が選任されました。

☒ 福利厚生部

- 部長 小林 丈男 (宇・晃陽中)
- 平成2年6月1日の部会において、本年度の正副部長並びに事業計画を次のとおり決定した。

- 1. 正副部長
部長 小林 丈男 (宇・晃陽中)
副部長 江面 幸雄 (栃・西中)
浜野 正美 (河・本郷中)

- 2. 事業計画
(1) 第1回 部会研究会 2. 6. 1 (金)
教育会館

- ア 役員選出
- イ 事業計画作成とその推進について

- (2) 第2回 部会研究会 2. 9. 1 (土)

- ア 「生徒手帳」編集会議

- (3) 第3回 部会研究会 2. 11. 6 (火)

- ア 「中学生の安全」編集会議

- (4) 会員研修会(講話) 2. 12. 6 (木)

- ア 講話 「退職後の生活設計」
講師 県教委 福利課職員3名予定
※ 職員対策部と共催事業

- (5) 第4回 部会研究会 3. 1. 22 (火)

- ア 「新しい道」の検討
- イ 本年度事業の反省と次年度事業計画について

上記の内容が、福利厚生部会の本年度、実施計画ですが、12月に予定しています会員研修会は来春、定年退職の方々を対象に会を進めるが、年金、退職金、退職後の医療保険に関心のある方は、ご参加下さい。なお、この会の参加は予約制となりますので、11月初旬ごろ、案内の通知を出しますので、内容をご覧のうえ、希望者は、参加申し込みをして下さい。

関東甲信越地区中学校長会
第42回研究協議会千葉大会
に参加して

事務局長 原 稔 (宇・陽東中)

「心豊かでたくましい日本人を育成する中学校教育」の大会主題のもとに、平成2年6月6日(木)7日(木)8日(金)の3日間にわたり、千葉県文化会館において開催された。あたかも21世紀に向けて、「房総の新時代」を開くかの如く、日本の誇れるコンヴェンションセンターがオープンし、京葉線の向うには左手に富士山、右手に幕張メッセの建物を有したすばらしい環境に心うたれるものがありました。栃木県からは69(校長)1(事務局)計70名が大会に参加し、全体会や分科会で熱心に研究討議がなされました。特に全体会では、精神的能力の退行現象を克服するための自我形成への教育的、実践的取組みの必要性、つまり活力に満ちた人間の心の回復であり、新しい人間中心教育の強化が趣旨であった。また、翌日の1から9まで分科会においては、新教育課程の移行と課題、個を生かす教育と条件整備、豊かな心を育てる道徳教育、生きる力を育てる進路指導、学校生活の充実を図る特別活動、部活動、自己実現を目指す生徒指導、創意と活力のある学校、地域に開かれた学校、職員の研修活動という事について研究発表・意見発表・質疑応答がなされ、今後の教育に示唆を与えてくれました。また7日(木)の昼休みのアトラクションでは、「佐原ばやし“手古舞”」や佐原ばやしの演奏があり多くの参会者の感動をよんだ。最後の8日(金)の講演では「自然環境の保護と利用」と題して千葉県立中央博物館長・理学博士・沼田眞先生のお話を聞く機会を得ました。沼田先生のすばらしい生態学を中核とした講演は質が高く、学ぶ事が多かった事とされます。最後になりましたが大会委員長渡辺信道校長先生を中心とした協力一致の態勢による研究は素晴らしく衷心より感謝と敬意を表するものであります。更に女性校長による司会進行も素晴らしく、これからの中学校長会に明かるい穏やかさを秘めたパイオニアのイメージを抱きながら千葉県を後にした次第です。

☒ 生徒指導部

部長 鈴木 元 (宇・若松原中)

平成2年6月1日の専門部会において、本年度の正副部長並びに事業計画を次の通り決定した。

- 1. 正副部長
部長 鈴木 元 (宇・若松原中)
副部長 軽部 亨 (芳・中村中)
〃 千本文雄 (河・明治中)

- 2. 事業計画
(1) 第1回部会研究会 平2. 6. 1(金)教育会館

- ア 役員選出
- イ 研究内容の設定とその推進について
○これまでの経過

昭和61年度	「長欠生徒の実態」
昭和62年度	「生徒心得の実態」
昭和63・平成元年	「校則の改善事例と生徒度 ・保護者・教師の意識」

- 今年度の研究主題
毎年のように増加の現状にあり、社会問題となっている登校拒否について歯どめがかからず、学校では憂慮している。しかも、ひとたび登校拒否となると学校に復するのが非常に困難なため、その兆候を察知し、指導することが大切と考え項目ごとに調査を行うことにした。

- 調査
・6月——アンケート作成
・7月——各中学校に配布
・8月——各地区ごとに集計
・9月——集計表を事務局に郵送
- (2) 第2回部会研究会 平2.10.2(火)教育会館
各地区でまとめた集計表にもとづいて、検討を加えながらまとめる。
- (3) 第3回部会研究会 平2.2
本年度事業の反省と次年度事業計画の作成について



新任校長の一言

人権感覚を磨く

上三川町立上三川中学校長
福井 淳

新任校長として着任し、はや6か月が過ぎた。私にとってこの期間は、緊張と戸惑いと共に、課題把握の貴重な時間であった。ところで、平成元年度と2年度の2か年にわたり、文部省並び県・町教育委員会の研究指定を受けた同和教育は重要な課題といえる。次代を担い、国際社会に生きる人間の教育として、歴史上の間違った身分制度の理解や、不合理な差別の解消はもとより、人権尊重の精神、つまり鋭い人権感覚の育成を図ることなのである。今、各中学校は新学習指導要領に基づく教育課程の編成に取り組んでいる。この根幹に据えるべきものとして「豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成」があるが、同和教育の推進はこれに大きく貢献するものと私は思う。このために、本校では日常生活の中で、教師・生徒ともに、お互いに人権感覚を磨き合う努力を重ねている。また、保護者や地域社会への働きかけも怠ってはならないと考えている。

新任校長として思うこと

都賀町立都賀中学校長
山本 幸正

入学式に新任校長として台上より生徒・教職員 新入生保護者等約1000名を前にしたとき、厳粛の中にも熱気のある雰囲気校長の存在の大きさと責任の重さを痛感しました。そこで校長の存在と責任を考えると、次の点に思いをいたしました。一つには学校経営の責任者である前に人間として信頼される存在であるべきで、生徒、教職員、保護者、地域社会とのコミュニケーションを大切に、常に心の通い合う雰囲気づくりに努めたい。二つには生徒一人一人が活躍でき、自分の力を発揮できる場が用意された学校を創ることが学校の責任と考え、個を育む学校づくりをめざして具

体的課題の解決に努力したい。三つには武道指導推進校(平成 2~4)となりこの機会に全職員の研修への参加意識を高め、機能する研修体制の確立をめざしたい。以上、気負うことなく全職員の理解と協力を得て一步一步前進して行きたいと思ひます。

感動体験を全ての生徒に

矢板市立片岡中学校長
長島 荘介

私が着任して間もない、春の校内組対抗陸上競技大会の事でした。優勝した組が担任を中心に涙を流して抱き合っていて喜んでいました。大会に向けて担任を中心に準備を進め、選手を選考するなどの過程の中で、学級としての団結と、クラス全員の気持ちの高まりの結果勝ち取った優勝だけに、喜びも大きかったのでしょう。今の生徒は、三無主義とか五無主義とか言われていますが、私はそうは思いません。日常の画一化された集団生活の中で、感動するような場が与えられていないのだと考えています。中学校3年間の生活で、出来るだけ多くの感動体験を味わってもらいたいと思っています。そこで過日市文化会館で開催されました国立ベルリン放送少年少女合唱団との競演会に生徒を参加させたところ、貴重な体験と感激していました。今後共、多くの感動体験をさせ、教育目標達成のための一方策として、位置付けたいと思ひ、具体策を職員と共に模索しているところです。

人間の形の刻み合いを

佐野市立南中学校長
楡井 周治

私は、敗戦の夏が中学1年生であった。英語も復活し、価値観逆転の時代であった。戦前の教師が、イザヤ・ペンダサン氏のいう国家主義的に焼き直したところの「日本教」の宣教師から、渴望していた「民主主義」の宣教師として、自由と平等を説く生き生きとした光景が45年たった今でも、鮮烈によみがえる。私も過去に多くの先生から教えを受けたが、こ

地区だより

研修会の一こま

宇河地区

今私達は、21世紀を担う日本人を育成するため豊かな心を育て、個性を伸ばす教育の充実を目指して、創意を巡らして、これからの学校経営の在り方を追求しております。その一環として学校の施設・設備はどう在ればよいか、どう活用すればより教育効果を高める事が出来るかを研修テーマとして6月19日宇都宮市で最も新しい上戸祭小学校(本年2月4日開校)を見学しました。今までの学校のイメージを払拭する斬新な校舎、切妻の屋根。当地が古代の集落跡である事から、その出土品を外壁に図案化して周辺の景観との調和が図られている学校です。教室には多目的スペースが付属しており、カーベットは敷いてあっても、汚す事に気遣う余り児童の活動が制約される事のない様、部分的に交換出来る細かい配慮がなされておりました。児童が心を開いて活動出来る雰囲気を感じられました。さて、この様な小学校で育てられた児童を中学校で引き継いで、更に教養育てていくには、中学校としてどう対処していったらよいか話題は尽きない有意義な研修会でした。

研修活動の概況

芳賀地区

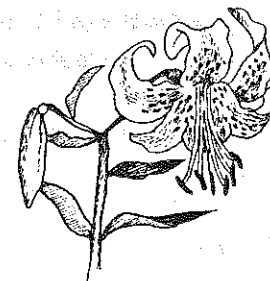
芳賀郡市中学校長会は今年度から真岡西中の創設により18校。5名の定年退職者に代わって6名の新人を加えて出発しました。総会を含めて7回の研修会を計画し、各回ともひとつのテーマについて情報交換や研究協議を中心に研修を進めています。それらについて概況をお知らせします。①部活動と傷害保険について……このことについては分かっているようで不明な点もあり、講話や事例研究で理解を深めました。②各種研究会等の事業計画について……統廃合と事業計画の見直しを視点に情報交換しました。

ういう知識を習ったということは残ってなくて、先生の人間臭やヒューマニズム。つまりかくあるべしという人間の形を刻んでくれた教師が、今も私の中に重なって生きていて、忘れられない。教育とは「教えるものと教えられるものとの人間の形の刻み合い」だという。教える相手に自分の形を刻みこむこと、人間の形を伝えることであるならば、教師は絶えず相手を刻むに耐えることのできるノミを研ぎ合う教師集団でなければならない。ここに教師自身の教育改革がある。

新任校長として

黒磯市立黒磯北中学校長
青柳 實

つい、まだ教頭のつもりで、細かな点についてある教師を指導したことがありました。「何も校長がそこまで言わなくてもいいのではないか。校長が言ったのではおしまいだ。校長の言葉は、学校では、絶対なのだから」その後、彼はこんなことをもらしていたと聞きたいへん、ショックでした。よかれと思って、言ったことが逆効果を生んでしまったのです。校長の発言は、教頭のそれより重く、決定的であることを思い知ったことでした。この意味においても、校長は発言はもちろん、行動、態度ひとつひとつ吟味してかかることが大切であると自重自戒しているこのごろです。さらに、校長はそのリーダーシップを発揮すると同時に、学校のすべての面に、目くばり、気くばりをしていかねばならないと考えています。しかし、右顧左弁のあまり、校長としての主体性は失いたくないと思っています。今後とも、研修に努め、教育の本筋を進もうと思う次第です。



統廃合についてはいろいろな困難点があるが、総会や役員会等の持ち方については、すぐにでも簡素化の方向で取り組むよう共通理解しました。

③生徒指導について……登校拒否の早期発見のための手がかりと校則の見直しの手順の2点にしばって、2名の発表をもとに研究協議しました。

④PTAの在り方について……PTAの現状と問題点について発表し合い、のぞましいPTAの在り方について研修する予定です。

なお、県の研修課題については、毎回研修員から報告と提案があり、研究討議が行われています。

10人の校長

塩谷地区

全部で10校の塩谷地区では、4人もの大校長(斉藤光司・関知弥・小堀良一・加藤晴一先生)が御勇退になりました。先輩の偉業を継ぐべく、仲山正雄会長のリードと、吉田・福田副会長をはじめとする先輩校長のバックアップにより、新加入の村島・長島・土屋・増淵の4校長もニューパワーを発揮し、前態勢を崩すことなく、塩谷の校長会は運営されています。

計画的に行われている研修会では、毎回、資料提供者が決まっています。能率的に進められ、様々な立場からの情報交換も和やかで、充実した研修になっています。特に、芳村・笹沼校長のユニークな発想と小野崎校長の堅実な着眼は示唆に富み、研修に深まりを与えてくれます。

本年度は、これらの研究成果の一端を「教職員の資質の向上を図る研修(校内研修を中心に)」としてまとめ、9月7日の県中学校長会研究大会第2分科会で、土屋校長(船生中)が発表しました。しかし、まだ基礎研究の段階ですので、10人の校長がそれぞれの持ち味を生かし、今後の課題である発展研究に努めたいと思います。



本会の研修計画

南那須地区

本会は、塩野寿会長(馬頭東中)を中心に、下記のような研修計画を立て、研修を進めている。

1. 研修テーマ 「教職員の資質能力を高める研修の現状と課題」
2. 研修計画
 - 4月 研修テーマ設定、組織づくり
 - 5月 学校経営状況調査(東京)
 - 6月 研修テーマの展開の具体策を考える。
 - 9月 県中学校長研究大会参加
 - 10月 研修テーマに関するアンケート
 - 11月 アンケート結果の集計と考察
 - 1月 研修のまとめ 郡小中学校長会で、研修の状況について発表する。(佐藤継也 下江川中)
 - 3月 次年度の計画

3. その他
 - 研修と並行して、研究学校への研究協力
 - ・下江川中(同和教育)
 - ・烏山中(道徳教育)
 - ・境中(生徒指導)

安佐地区研修への取り組み

安佐地区

本会は、星野三良会長(佐野北中)を中心に、「新教育課程の編成に関する研究」を主題として昨年度に引き続き研修を進めている。

さらに、各校に於てはそれぞれ独自の研修が進められているが、本年度発表の学校は下記の通りである。

- ◎佐野市立南中学校(県指定・体力づくり) 「一人一人がねらいをもち、進んで取り組む、体力づくり」 (教科体育を中心に、体育的学校行事との関連を図って)

- ・10月8日(月) 10:10~ ◎葛生町立葛生中学校(文部省指定・格技指導) 「武道の心を生かした生徒の育成」 ……礼儀正しい節度ある生活をめざして… (剣道)・全校運動 研究実践内容報告
- ・11月8日(木) 12:30~ ◎佐野市立吾妻中学校(市指定・学校同和教育) 「人権意識を高め、互いに認め合い、支え合う生徒の育成」 (めざす生徒像へ向けての三指導、人権教育の充実) ・11月20日(火) 13:00~

変化への対応を図るために

足利地区

基本的には、県中学校長会の研究主題である新教育課程の編成の問題に取り組むことにしたが、本年度も校長11名中4名の入れ替えがあったため昨

年に引続き研修内容に学校経営関係のものを含め、下記のような計画で研修を進めている。

その中でも、実情調査は「個性を生かす教育の充実」という見地から主として「選択履習の幅の拡大」について先進校を視察し、特色ある履習とそれによる学習指導の改善をどう図っていくか学んでくることにしている。

- | 月 日 | 研修内容 |
|--------|------------------------------|
| 4. 17 | 研修主題・研修計画の検討 |
| 6. 19 | アンケート案の検討 |
| 8. 2 | 学校経営に関する研修 |
| 11. 5 | 学校経営実情調査、滋賀大学附属中学校と兵庫県山崎西中学校 |
| 11. 22 | 小中校長合同研修(一般教養) |
| 11. 30 | 小中校長合同研修(同和教育) |
| 12. 4 | 次年度の教育課程編成案について各校の発表 |
| 1. 25 | まとめと次年度の課題 |

私の朝会訓話

「志あるものは事ついに成る」

益子町立益子中学校長 飯村 武

「教師が授業で勝負する」とすれば「校長は講話で勝負する」といわれる。それほど講話は教育に大きな力をもつものといえよう。生徒を中心として、父母や教職員に対しても、校長講話は、その人の人格や教育観が伝わる重要なものである。せっかく準備した講話を、生徒の心を揺さぶり、印象的にするには、題材の吟味と精選であろう。

そこで、学校の教育目標に即した全体計画の中で「この時節にはこの講話を」という計画や準備を年度末に立案したい(緊急の指導もあるが)。

どんな素材にしる、取りあげ方は異なっても、目標に関連づけて迫ることができる。つまり、歴史、伝記、ニュース、小説、童話、自然や動物などの事例を広く求め推敲を重ねる。具体的で身近な問題にこそ生徒達は目を輝かせ耳を傾けるものである。

ここでは、名言をとりあげた例をあげてみたい。(要旨)

5世紀ごろの中国の書物に「後漢書」がある。

その中に「志あるものは事ついに成る」という名言がある。つまり目標を立て計画を着々と実行すれば必ず成しとげられるという意味。志とは高校や大学へ入学することだけではない。生涯において何を為すべきかの方針を立て、計画にしたがって根気強く実行すれば、必ず希望も達成されるということ。すでに将来、どんな仕事に、どんな職業にと希望をもっていると思う。

私も中学時代は悩んだ。……(中略)

ところで希望する職業に能力や適性は大切な条件。これは大変むずかしいが、「好きこそものの上手なれ」の格言どおり、適性とは、ある意味では好きな仕事に向かって、たえず努力し磨き上げることによってより確かなものとなるのではないか。「志あるものとは、しっかりした進路の希望をもっている者」である。みなさんの自分の能力を正しく見きわめながら、必ず実現しようとする強い意志と実行力をもってもらいたい。

《お知らせ》

第24回全日本中学校道徳教育研究大会
第19回関東甲信越中学校道徳教育研究大会
「栃木大会」へのご案内

第33回全関東地区中学校国語教育
研究協議会栃木大会のご案内

栃木大会運営委員長 薄 井 健 郎
(宇・宝木中)

栃木大会運営委員長 清 水 昭
(宇・旭中)

11月1日(木)・2日(金) 宇都宮市において標記研究大会を開催いたします。本大会は「豊かな心を持ち、主体的に生きる日本人を育てる道徳教育」を大会主題に掲げ、一日目は宇都宮市立雀宮中学校を会場として、12学級による公開授業と、授業研究会を中心に「生徒の内面的な自覚を深め、道徳的实践力を育てる道徳教育の推進はどうあったらよいか」について研究を深めたいと考えております。二日目は県教育会館において5分科会により、本年度全面実施の新中学校学習指導要領に基づいた全体計画、年間指導計画、道徳の時間の指導、資料の開発と活用、道徳的实践力を高める体験活動、家庭及び地域社会との連携を図る道徳教育等の研究討議を計画しております。私どもが本大会の推進に当たって考えましたことは、本大会に全县を挙げて取り組むことにより、栃木県内全域の道徳教育の実践力を高めようということと、道徳の時間の指導のあり方を研究し、着実な道徳教育をおし進めようとしたことでもあります。

なお、一日目の指導講演は、文部省教科調査官安澤順一郎先生をお迎えし、二日目の記念講演は日光東照宮教学部長兼文庫長、高藤晴俊先生により、「東照宮再発見」のご講演をいただきます。

本大会開催の運営準備にあたり、県内各学校より多数の係役員のご派遣をいただき感謝申し上げます。参加費は県内に限り、一校より複数の参加者があっても一名分(4000円)で結構です。資料として、新学習指導要領に基づく全体計画、年間指導計画作成の手びき、並びに各学年別年間指導計画(105単位時間の全学習指導案)を配布いたします。目下申込み受付中ですので、多数の先生方のご参加方ご高配をお願い申し上げます。

標記の研究大会が、来る11月16日(金)、小山市立小山第二中学校(星井田 亨校長)を会場として、関東各都県中学校の国語教育担当教員が一堂に会して開催される運びとなりました。

新学習指導要領の趣旨と内容にのっとり、「理解」と「表現」の両面にバランスのとれた国語力を身に付けさせるために、『自ら学ぶ意欲と豊かな言葉の力を育てる国語教育の推進——基礎・基本の徹底と個を生かす指導の工夫』という研究主題の下に、公開授業、分科会、記念講演などの多彩な内容を盛り込みました。

特に、会場地区の下都賀地区中学校教育研究会国語部会では、すでに昭和63年度から、授業研究会を中心とする準備万端に一丸となって取り組んでおります。公開授業では、小山市、栃木市、大平町、岩舟町の6名の教諭が自校の生徒とともに会場校に移動し、そこで授業を行います。教師と生徒の輸送には、それぞれ市・町のバスを提供していただくなど、文字どおり地域や学校・行政当局を挙げての協力・援助が進んでいます。

分科会では、各都県の代表に加えて、本県各地区から6名の提案発表者による実践研究の成果の発表に、大きな期待が寄せられています。

文部省初等中等教育局の教科調査官による講話とともに、宇都宮大学長尾 高明教授の『豊かな言葉の力を育てるには』と題する記念講演も予定され、準備は今、大詰めの段階に入りました。

この研究大会は、広告料等を一切集めず、国語担当教員の拠出金をもって予算の大半を埋めています。それだけに、栃木県及び小山市教育委員会をはじめ、栃木県中学校長会、栃木県中学校教育研究会などの補助金や物心両面にわたる一方ならぬ御援助を、身にしみて有難く感じています。